

平成 21 年 8 月 28 日

日本木材学会
事務局 西田篤實 殿

〒113-0034 東京都文京区湯島 1 丁目 12 番 6 号

高関ビル 3 階
財団法人林業経済研究所
所長 荒谷 研二


シンポジウムの共催に関する依頼について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当研究所では、別紙内容によるシンポジウム「ウッド・ニューディールで木材需要を拡大するには何が必要か」の開催を予定しております。

つきましては、過日、中村昇 秋田県立大学教授を通してお願い申し上げたところですが、是非、貴学会の共催をお願いいたしたいと考えております。何卒宜しくご高配いただきますようお願い申し上げます。

また、中村昇先生からは、シンポジウムの案内をHP、学会誌の両方にするかどうかについてもご連絡するようにいわれておりますが、できれば両方にしていいただければ幸いです。

なお、中村昇先生からは7月の段階でご連絡をいただいておりますが、小生の体調不良により、正式なお願いが遅れましたことをお詫び申し上げます。

敬具

記

第9回 林業経済研究所シンポジウム
「ウッド・ニューディールで木材需要を拡大するには何が必要か」

シンポジウム実行委員会 主催
日時：平成 21 年 11 月 7 日（土）10：00～17：00
場所：東京大学 農学部 1 号館 8 番教室

以上

「ウッド・ニューディールで木材需要を拡大するには何が必要か」

2008年9月以降、金融不安を発端とした世界同時不況のなか、各国政府は「市場の失敗」を修正する目的で、大規模な公共投資を伴うグリーン・ニューディール政策を打ち出している。グリーン・ニューディール政策とは、環境・エネルギー問題を解決するため、公共投資や民間投資の拡大によって、技術開発や製品普及を促進することで新しい需要を開拓し、雇用を創出しようという構想である。国連の潘基文事務総長やアメリカの・オバマ大統領がこれを積極的に推進しようとし、わが国でも環境負荷の軽減と需要・雇用の創出を基本的な考えとする日本版グリーン・ニューディール「緑の経済と社会の変革」構想が打ち出された。

森林・林業分野は、森林が公益的機能を有することや、森林整備の総事業費に占める人件費が大きいことから、1920～30年代大恐慌の際にも各国政府が造林事業を大々的に実施するなど、失業対策事業の受け皿の一つになってきた。今回の「緑の経済と社会の変革」においても、地球温暖化防止に向けた取り組みとして、緑の公共事業による人と環境に優しいインフラ整備などが唱われている。また同時に、住宅を含めた消費、生産設備や産業構造に対する政策によって、環境対策を行うとともに、経済危機を克服しようとしている。

森林の経済的機能の発揮が不十分であることが、公益的機能にも影響を与えている今の日本の森林にとって、環境負荷の軽減はいかに日本の森林を利用するかであり、国産材需要の拡大が基本になる。そして、これが雇用の拡大にもつながる。近年、日本の木材自給率は若干上昇に転じているが、合板原木の国産材化など、中国における木材需要の急速な拡大といった海外における需給構造の変化に影響された部分の大きいのが実態である。

「緑の経済と社会の変革」では、学校の木造校舎化、国や地方公共団体での間伐材や合法性が確認された木材の利用拡大、長期優良住宅の普及、省エネ住宅・建築物の導入を目指しているが、これらを国産材需要拡大の起爆剤にするには、何が必要になってくるのか。グリーン・ニューディールの中での木材需要開拓を「ウッド・ニューディール」と銘打ち、土木工学、木造建築学、自治体関係者も含め、パネルディスカッションにより議論したい。

プログラム

9:45 開会

10:00~10:40

1. ウッド・ニューディールとは何か? (関 良基氏: 拓殖大学)
ニューディールとは何か (歴史的背景を踏まえて)
グリーン・ニューディールの意味 (環境と経済)
グリーン・ニューディールの中でのウッド・ニューディール

10:40~11:20

2. 土木現場での木材利用 (沼田淳紀氏: 飛鳥建設技術研究所)
なぜ土木建設で木材を利用するようになったのか
木材・国産材利用の実態
木材・国産材利用のメリット・デメリット
今後の拡大に向けての問題点

11:20~12:00

3. 公共建築物での木材利用 (青井秀樹氏: 森林総合研究所)
公共建築物への木材・国産材利用の背景
木材・国産材利用の実態
木材・国産材利用のメリット・デメリット
今後の拡大に向けての問題点

12:00~ 13:00

休憩

13:00~13:40

4. 茂木町はなぜ木材を使うのか? (古口達也氏: 栃木県茂木町町長)
一町立茂木中学校を事例にー
公共建築物への木材・国産材利用の背景
木材・国産材利用の実態
木材・国産材利用のメリット・デメリット
今後の拡大に向けての問題点

13:40~14:20

5. 新しい住宅建築が要求する木材 (中村昇氏: 秋田県立大学木材構造研究所)
これからの住宅政策 (住生活基本法)
耐震性の導入で木造住宅はどのように変わったか
長期優良住宅、省エネ住宅とは、国産材との関係は
木材・国産材利用拡大へ向けての問題点

14:20~15:00

休憩、質問票整理

15:00~17:00

総合討論 (コーディネーター 荒谷明日見: 林業経済研究所 所長)